

拝啓

一年で一番寒い季節ですが、お元気でお過ごしのこととお慶び申し上げます。いつも「エンカウンター」お読み頂きありがとうございます。

さて、今月号から、新渡戸稲造先生の「一日一言」からの引用を致します。「一日一言」は、新渡戸先生が大正2年、一高校長を辞任した後、あいさつ回りのため、岩手県宮古地方をバスで旅行中、バスががけ下に転落し、岩手病院に入院中に構想が生まれて、大正4年2月に発行されました。ものすごい知識、教養だと思います。ちなみに、有名な「武士道」も、明治32年病氣療養（過労によるうつ病か、神経病だと思います。）で、アメリカ滞在中に、英文で書かれました。両著とも、病氣療養中の構想、または執筆で、極めて有名な新渡戸先生の代表的な名著であることが共通しています。

私は「一日一言」を、今でも毎朝、内村先生の「一日一生」、小西先生の「主の御名を呼ぶ」などと合わせて読んでいますが、これまでに10回は読んだように思います。私自身の、倫理の手引きとなっています。「一日一言」は、カーライルの影響を受けていると思うのですが、非常に実践的な倫理である点に特徴があります。小西芳之助先生は、学生時代、この本を英訳されて、勉強されたとお聞きしたことがあります。（ちなみに、内村先生の「一日一生」は、大正15年10月に初版が発行されていますから、新渡戸先生の「一日一言」は、「一日一生」に触発されて作られたとも想像できます。）

この本は、昔は、古本で読むか、新渡戸全集で読むか、入手が困難でしたが、数年前、盛岡の新渡戸基金で、新版を発行されています。購入されて座右の書とされることをお勧めします。

新渡戸稲造「一日一言」 1429円+税

発行 新渡戸基金 020-0024 盛岡市菜園1-4-10 第2サンビル6階

T E L 019-654-3279 F A X 019-652-4213

なお、新渡戸基金から出している「新渡戸稲造研究」の第13号に、私が書いた「新渡戸稲造『信仰経験を語る』」という文章のコピーを添付させていただきますので、ご覧下さい。

また、エンカウンター先月号、最後のページに南原先生の写真をつける筈だったのですが、忘れていました。今回お送りいたしますので、先月号の最後のページに綴じて下さい。

寒さ厳しき折から御身体御自愛の程祈り申し上げます。

敬具

平成17年1月27日

山口周三

エンカウターの読者各位